

## 当センターにおける胃検診の検討

富山県厚生連総合検診センター

中谷 恒夫 小川 忠邦 加納 弥一  
 樫下 正幸 永田 広幸 石川 靖  
 岸 宏栄

### はじめに

当検診センターは、昭和54年7月開設以来昭和59年12月末に至るまで13,201名に対して胃検診を行なっている。検診方法は、アンダーチューブ型透視台による直接撮影であり被検者には、支障のない限り鎮痙剤を使用している。これまでの胃癌発見者は、45名(0.34%)である。今回、昭和56～昭和58年度における当センターの結果を分析すると共に発見時のフィルムを再読し情報量や撮影について検討したので報告する。

### 1. 統計より

胃検診受診者の年齢構成は40～50歳代が大半を占めており、約17%にあたる人がなんらかの異常を認める要精検者で、その内61%の人が二次検診を受診している。二次検診の結果75%の人がなんらかの胃疾患を持っているようである(表1)。56年～58年度の胃癌発見率は、約0.39%で、年齢的に見ると60歳代の1%弱、50歳代の0.5%の発見率に注目される(表2)。又50歳代の進行癌発見率も注目される点である(表3)。

### 2. 撮影フィルムの情報量の検討

胃癌発見者のフィルムを再読し次の4段階に分類し写真の情報量について検討した。

- (A) 器質的病変診断が可能である。
- (B) 癌を疑う所見がある。
- (C) 病変は捉えているが、器質的に不明である。

(D) 癌を指摘していない。(他の部位で病変を捉えたものを含む)。

再読したフィルムは報告病理・確定病理のある33例である。

### 結 果

病変部位は、60%幽門部であり(表4)病期はIIcが39%であった(表5)。一応病変を捉えている写真は90%以上で、癌や癌を疑うことの出来るフィルムは64%であり圧迫法や薄層法等ルーチンに加算した撮影が有効であった(表6)。又(C)に該当する病変は、小さな病変が多く、部位分類では胃体部領域に多くみられた。

### 考 察

統計的に見れば、60歳代・50歳代さらに40歳代の胃検診を推進する必要を感じ、特に50歳代の進行癌の発見率が高いためこの年代は、継続的に検診を行なう必要を感じた。又二次検診による病変の結果報告が75%有るため、未受診の要精検者に対して積極的に働きかけ受診率を高める必要も有ると思われる。

影に関しては、大体病変を捉えているが、今後も読影医に対し情報量の多い写真が提供できるよう様々な撮影法を駆使し、特に隆起性や小さな病変の器質的変化の読み取れる撮影を行なう必要を感じた。

### おわりに

昭和58年度の厚生省の調査によると、富山県の胃癌死亡率は対10万人当たり60.8人で全

国第2位の高率であり今後も検診受診への啓蒙と追跡を推し進めることが必要とされるであろう。我々は、今後も検査技術のレベルア

ップを常に考えながら検診を行なって行きたい。

表1 二次検診受診結果

	総合検診 受診者	要二次 検診者	二次検診 受診者	胃 癌	ポリープ 粘膜下腫瘍	胃・十二 指腸潰瘍	胃 炎
56年度	2,427	438	271	9	27	30	123
57年度	2,822	558	327	9	54	33	137
58年度	2,625	361	230	13	30	28	86
TOTAL	1,357(A)	1,357(B)	828(C)	31(D)	111(E)	91(F)	346(G)
%		17.2B/A	61.0B/C	0.39D/A	1.4E/A	1.2F/A	4.4G/A

表2 年代別・性別胃癌発見率

	40歳代	50歳代	60歳代	計
男	0.17%	0.84%	1.2%	0.66%
女	0.14%	0.31%	0.72%	0.31%
計	0.16%	0.51%	0.98%	

表3 年齢別胃癌発見率

	56年度		57年度		58年度		病 期	
	受診数	胃 癌	受診数	胃 癌	受診数	胃 癌	早期	進 行
40代	967	2(0.21%)	895	1(0.11%)	698	1(0.14%)	3(10%)	1(3.3%)
50代	864	4(0.46%)	1,067	4(0.385%)	1,012	7(0.69%)	8(27%)	6(20.0%)
60代	390	3(0.77%)	388	4(1.035%)	444	5(1.13%)	11(37%)	1(3.3%)
70代	36	0	39	0	45	0	0	0

表4 胃部位別情報量比較

情報量	穹隆部		胃 体 部				幽 門 部			
	A	B	A	B	C	D	A	B	C	D
前 壁			1				1			1
後 壁	1	1	2		3	1	2	3	1	
小 弯					1		4		4	
大 弯			2				2	1		
全 周					1		1			
計	1	1	5	0	5	1	10	4	5	1

表5 病気別情報量

	A	B	C	D	計
Borr II	3				3( 9%)
Borr III	3		1	1	5( 15%)
IIa		1	2		3( 9%)
IIc	6	1	5	1	13( 39%)
IIa+IIc	2				2( 6%)
IIc+III	1	2	1		4( 12%)
IIc+I			1		1( 3%)
IIb+IIc		1			1( 3%)
IIc+IIa	1				1( 3%)
計	16(49%)	5(15%)	10(30%)	2( 6%)	33(100%)

表6 撮影別情報量

		A	B	C	D	計
前壁	体部像					
	幽門部像	3				3
立位充えい像		1				1
腹臥位充えい像						
背臥位 二重造影	正面	3	1	3		7
	第一斜位	1	1	1		3
薄層法	体上部		1	3		4
	体下部	2		1		3
背臥位第二斜位		1		2		3
穹隆部前壁像						
穹隆部	第一斜位					
	第二斜位					
圧迫法		4	2			6
その他					2	
計		16	5	10	2	33